

かえる便り 28年度1号

平成28年4月8日

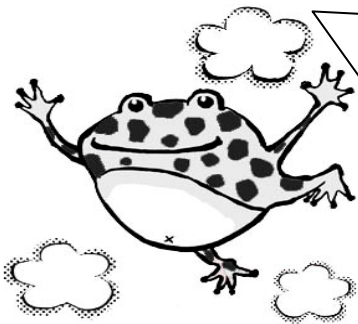
陽春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私達が日常生活（仕事やスポーツ含む）をする際、判断・決断力があらゆる場面で必要になります。幼児は良い悪いや危険な物を判別する力はありません。成長に伴い経験や知識を身に付けることで判断力が高まっていきます。試合中、周りを見ないプレーや技術不足のために、自ら危険な状況をつくり出す選手がいます。

『実力の差は努力の差。実績の差は苦勞の差。判断力の差は情報の差。』

実力とは実行力の差です。サッカーの場合、“得点する” “ボールを奪う”

ために『常に周りを見て次のプランを立てる』（ボールウォッチャーにならない）ことを考え実行するのです。やらなくてはならないことを本当にしているか？ 情報を集め分析しているか？ 分析するための知識・原則を理解しているか？



今春、国公立大学に部員2名（浪人含む）が合格しました。希望した大学に合格できなかった卒業生もいますが、今いる場で全力を尽し己を高める努力をして欲しいと思います。

自分を高めるためには、習慣化することです。習慣になっているから時間短縮ができるのです。習慣にするには、先ず行動をすることです。

春の遠征中、部員達に要求していることがAチームは少しできるようになってきました。下関フェスティバルでは予選リーグ3勝（10得点1失点）で1位トーナメントの準決勝は3対0で勝ちました。決勝戦は互いに無得点でPK戦の末敗退しました。連戦での疲れから運動量が少なく、内容もよくない試合でした。決勝は勝ち残った両者による最終的な勝負を決める試合です。そこで最高の力を発揮できる体力・精神力がないと勝てません！！最高の相手に勝る戦いができる力（心技体）を身に付けて欲しい。（決勝で負けた悔しさは、どうだった？）

指示したことができる人達と出来ない人達がいるのは、どの集団でも同じです。同じものを見聞きしても実力差が生じるのは、指示されたことや正しいことをやり抜く努力の違いだと思います。やり続けていると、“何か”（コツ）を会得する瞬間がきます。そうすると、自ら考え工夫して行動するようになるのではないのでしょうか？伸びない人は、自己流でやっていることが多いから、同じ失敗を繰り返すのです。